

## コウノトリが運ぶ農業の未来 ～お接待文化が息づく徳島の取組み～

### 徳島県 知事 飯泉嘉門氏

ただ今、ご紹介いただきました徳島県知事の飯泉嘉門です。今日は池谷会長さんをはじめ、日本生態系協会の皆様方には大変貴重な講演の場をいただきまして、本当にありがとうございます。また、小山の大久保市長さんにおかれましては、御高配をいただきましてありがとうございます。

それでは、早速「コウノトリが運ぶ農業の未来～お接待文化が息づく徳島の取組み～」についてご紹介していきたいと思っております。今日のラインナップはこちらのとおり。4本立てとなっております。まずは徳島県の紹介であります。東京オリンピック・パラリンピックの招致の際、滝川クリステルさんが「お・も・て・な・し」と語りました。実はこの「おもてなし」。四国八十八か所霊場のお接待文化からきておりまして、徳島は、その1番から23番まで、「発心の道場」と言われております。

また、今年、「架橋30周年」となりました「大鳴門橋」であります。架橋された時は、「東洋一」のつり橋。徳島と続く淡路島は、現在は兵庫県ですが、明治には徳島県でありました。また、ベートーヴェンの第九、日本初演の地は鳴門徳島でありました。「奇跡の収容所」と呼ばれ、青島(チンタオ)のドイツの俘虜の皆さんを人道的な扱いを行った。この松江所長さんは会津の出身。ベートーヴェン第九の初演は、1918年の6月1日。ちょうど2018年の100周年に近づいているところ。徳島のレンコンはと言いますと、東は茨城、西は徳島。品種が違

いまして、関西で正月に使いますが、徳島の「備中種」であります。

さて、この鳴門・徳島に、コウノトリが飛来して参りました。今回飛来したコウノトリは、メスは朝来市生まれ、オスは豊岡市生まれであります(図-1)。実は徳島には、2013年から度々飛来していたのですが、今回のように巣作りしたのは、豊岡周辺以外では初めてであります。先程、中貝市長さんからございましたように、「放鳥から10周年の記念の年」、今年であります。少し巣作りの様子を見ていただきましょう。

ただ、映像を見て気になりますよね・・・電柱に営巣をしたんですね。これでは、いけないと、すぐさま四国電力の方にこの電信柱の電源を止めてもらいました。午前中に申し入れたところ、午後には工



図-1

事完了という、「電光石火」の対応。バイパス工事でコウノリの営巣しているところに電気を通さないという、「粋な計らい」となったところがあります(図-2)。

次に、定着を進めなければならないということで、「お接待文化の息づく徳島」でありますので、「お接待作戦」を強力に推進をいたしました(図-3)。

まず、組織であります、よく三位一体という言葉がありますが、今回は、「三位一体」どころか、「五位一体」というところでしょうか、地元JAの皆さん、また大学関係者、鳥類の専門家、更には生産者の皆様にも加わっていただくとともに、アドバイザーとして兵庫県立大学の皆様にもお加わり頂いて、5月21日に「コウノリ定着推進連絡協議会」が発足しました。営巣したのが、5月上旬でありますので、すぐさま対応させていただいております。

その中では、5つ部会をつくらせていただいております、まず1番目は、生物調査部会ということで、コウノリの食性や水生動物の調査を行って、2番目に餌場の確保部会へと繋がっております。先程、映像がありましたように、ピオトープを設置し、餌場として活用していこうと。またもうひとつ問題なのが、「コウノリが来た」ということで、マスコミの皆様を通じ、全国に報道されました。多くの皆さんが「コウノリを一目見たい」、「それを映像で撮りたい」と。

しかし、コウノリの目線に人の視線が入りますと、立ち所に逃げてしまう習性があります。そこで、啓発部会を設けて、この機会に観察者のマナーを手厚く作り上げていこう。次に、しっかりと営巣し、子育てをしていただく必要があるとして、果たして電柱のままでいいのか、「巣塔の設置」を考えた方がいいのではないかと、営巣部会ではその研究をスタートさせました。また、ブランド推進部会では、生産者団体の皆さんにも加わっていただいておりますので、農業振興、あるいは地域振興に結びつける「ブランド」を考えるべきではないだろうか。これら5つの部会を同時にスタートさせていただいたところでもあります。

それでは、それぞれの部会の活動を紹介させていただきます。

まずは、1番目の「生物調査部会」であります、実はコウノリはいろいろな生き物を食べております(図-4)。少し映像でご覧いただこうと思えます。

(動画の解説)

大きなカエルを捕まえました。食べるかなーと思いましたが、ちょっと大きすぎたみたいですね。隣にもっと面白いものを見つけたみたい。「ザリガニ」です。器用に振るってハサミを落とし、もの見事に「パクリ」と食べてしまいました。美味しそうです



図-2



図-3

ね。

実はこのアメリカザリガニ。レンコンにとっては、まさに害虫といえますか、田んぼに穴をあけて水を落としてしまったり、レンコンの肌を傷つけてしまう。これを農業で駆除するわけにもいかない。なんと「救世主現る」ということで、パクパクと食べていただいているところ。

ということで、今度は十分に餌を確保しないといけないということになりました(図-5)。では、なぜなのか。コウノトリが来たのが5月でしたが、夏になるとレンコンの葉っぱが田一面に。レンコンは丈が2m。レンコンの水田は全てレンコンの葉っぱで覆われてしまう。こうなるとコウノトリとしては、餌場として活用がしづらいであろうということで、休耕田を

活用して餌場に活用しようではないか。休耕田をビオトープ化するというので、募集しましたところ、15カ所の田んぼが集まり、面積にして、3haとなりました。魚道も設置いたしまして、水路、田んぼあるいは休耕田にどんどん生物が入り込む環境を作らせていただいたところです。

そして、マナーをしっかりと。「啓発部会」の皆さん方にも「コウノトリ安全パトロール」のステッカーを車に貼り、監視活動をしていただいております(図-6)。そして、監視員の皆さん方は、立て看板を立てると共に、周りの皆さん方に「マナー」を注意して回るという形でしっかりと、そして「遠くから観察してくださいね」と、こうした対応をさせていただいております。

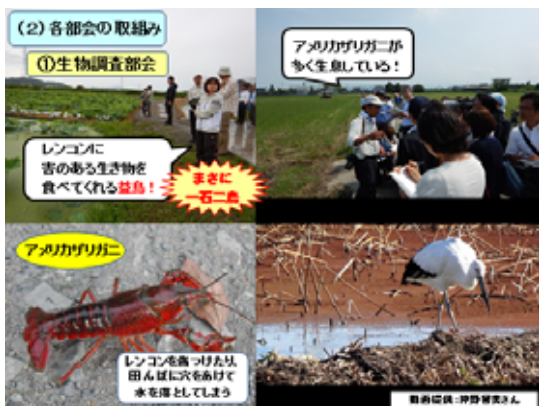


図-4



図-6



図-5



図-7

次に「営巣部会」であります(図-7)。当面、この電柱を活用しているわけではありますが、実は徳島は台風の常襲地帯であります。コウノトリが営巣し、皆が見守る中、7月に大きな台風がやって参りました。皆さんは大変心配しておりました。これで巣が飛ばされてしまったら、もう2度と帰って来てくれないのではないかと。しかし、そこは大破とまではいかないまでも、持ちこたえまして、2羽で繕い直していただいたところ。こうした様子もご覧頂けたらと思います。仲睦まじいですね。ということで、できれば永久的にこの巣が保てるように、「人工巣塔」の設置を視野に入れ、設置場所や或いはその構造・素材、先進的な全国の事例、豊岡市さんの映像にもありましたように、こうしたものをしっかりと研究をして参りたいと考えております。

そして、今度は「ブランド推進部会」であります(図-8)。やはり、この幸せを運ぶコウノトリと共に、「コウノトリが生息する場所」、そして作られたレンコン或いは農産物といったものは、減農薬など、「環境にやさしい農業」のまさに象徴といえるところであります。これをしっかりと、技術面では「農林水産総合技術支援センター」が、また、こうした活動についてのPRは、地元鳴門市、また学術関係の皆さん、そしてもうかる農業をしっかりと考えるJAの皆様方がサポート。そして何よりも生産者グル



図-8

ープ(レンコン研究会)の皆様方も加わり、こうした多くの皆様方の力を合わせて「新たな食品ビジネス」、そして「6次産業化人材の育成」を図っていこう。県内の大学はもとより、高校などにもしっかりと呼びかけて、具体的な推進を図っているところでもあります。

そうした中、やはり「幸せを運ぶコウノトリ」であります。主力の品種である「備中」は、夏は8月下旬から9月上旬が収穫期であり、7月から8月上旬の台風で大きな被害を受けてしまいます。そこで、レンコン農家の皆さん方の長年の願い、「新しい品種」をしっかりと、できれば早生栽培のできるものをと、このように言われておりましたところ、この度、本県の農林水産総合技術支援センターと農家の皆様方との長年の努力が実りまして、「徳島で採れる」という意の「阿波」、「備中」よりも「より白く、優れた味」という意の「白秀」という新品種・「阿波白秀」の開発に成功し、農林水産省に登録申請をしたところであります。

まさに、コウノトリが「新品種のレンコン」を運んでくれたこととなります。また、さらには、6次産業化を日本全体で、産業の成長戦略へと、そして、2020年には1兆円産業へと、国におかれましては、平成26年度に閣議決定を行ったところであります。その意味で、徳島におきましては、今日の名だたる大学の中に「6次産業学部がない」、そして、多くの大学が文部科学省に申請したところ、「全部思いつきではないか」ということで、全部なで切られたところではありますが、これも長年にかけて6次産業化を進め、そして、そのキャリアパスを作ってきた徳島県と徳島大学との共同作業で、いよいよ来年4月、生物資源産業学部が誕生します。徳島大学に新しい学部ができるのは30年ぶり。これもコウノトリのお陰でございます。

そこで、コウノトリをより地域の皆さん方と共に、育てていこうということで、「鳴門コウノトリ鳥獣保護区」を指定させていただきました。コウノトリが営

巣しておりました場所を黄色で示しておりますが、この周辺は実は猟銃で撃つことができるエリアでした。この周辺のブルーに染めているところは、銃器の使用禁止区域となっています。そこで、ここを一気にということで「希少鳥獣生息地の保護区」として、県内初の試みとなりました。「猟期の前」ということで、11月1日に490haを指定しました。これによって、周辺の規制区域とともに、大きな規制区域ができることとなりました。コウノトリの行動範囲がより広くなっても大丈夫ということでもあります。

ということで、いよいよ最後のページとなりました。今、国・地方を挙げて、「地方創生」、それぞれの地域の宝の発見とそれに磨きをかけまして、「大競争時代」となっているところであります(図-9)。そうした「地方創生元年」に、コウノトリがやってきて、しかも営巣を初めてしていただいている、それがレンコン畑。レンコンについては、長らく減農薬など、「環境にやさしい農業」に取り組んでこられた農家の皆さん方のその努力を、コウノトリが国内外に発信してくれたところでもあります。

この「コウノトリが運んでくれた幸せ」を、全国の皆さん、そして、先程ミラノ万博の話がありましたが、徳島の阿波藍、ジャパンプルーと言われるのは徳島だけ、ということで、9月の6～9日まで日本館の徳島ウィークでは、「ジャパンプルー」をテーマとして、世界に向けて発信させていただいたところでもあります。

「知恵は地方にあり。」よく地方創生で言われる言葉であります。その発祥も平成22年に行った「徳島発の政策提言」から。是非、徳島としては、「コウノトリ」と共に「地方創生の旗手・徳島」というだけでなく、「日本創成」の礎を皆さん方とともに、しっかりと創り上げて参りたいと思いますので、これからも御協力をよろしくお願い申し上げます、私の講演を閉じさせていただきます。



図-9

